

令和6年度岩手県立美術館協議会議事録

1 日 時	令和6年9月3日（火）10:30～12:30
2 場 所	岩手県立美術館 ホール
3 出 席 委 員	合川常美、泉澤毅、伊藤真紀子、内田留美子、大衡彩織、小野寺真貴子、梶田佐知子、加村なつえ、菊池勝彦、齋藤桃子、志田芽衣子、田中麻里、柳田陽一、山口真樹（以上14名）
4 欠 席 委 員	中野圭（以上1名）
5 （県側出席者） 生涯学習文化財課	小澤則幸総括課長、小川信子主幹兼生涯学習担当課長、猿ヶ澤茂樹主査
6 文化振興事業団	安藤事務局長（欠席）
7 美 術 館	藁谷収館長、多賀聰副館長、千田貴浩総務課長、吉田尊子学芸普及課長、加藤俊明上席専門学芸員、濱淵真弓上席専門学芸員、岩渕毅弘主任専門学芸調査員、本波敏主任主査、杉田友視主査

1 開 会	事務局より、委員15名のうち14名の出席により、岩手県立美術館管理運営規則第9条第2項に規定する委員の半数以上の出席という要件を満たしている旨報告された。
2 委 員 紹 介	（出席者名簿により自己紹介）
3 職 員 紹 介	（出席者名簿により出席職員を紹介）
4 館 長 挨 拶	藁谷館長より挨拶があった。（挨拶内容省略）
5 議 長 就 任	岩手県立美術館管理運営規則第8条第2項の規定により、議長は会長が務めることとされていることから、以後の議事は、山口会長が進行した。
6 議 事 （1）説明事項 説明事項 ア 【質疑応答】	令和6年度 岩手県立美術館協議会について（追加資料） 生涯学習文化財課 猿ヶ澤主査から説明を行った。（説明内容省略）
◆委員	説明に対しての意見はなかった。
説明事項 イ 【質疑応答】	「岩手県立美術館の概要について」（資料1） 事務局から資料1により説明を行った。（説明内容省略）
◆梶田委員	協議会開催日程が倒しになったということは、購入されるものについていろんな議論をする会であるため、前倒しになったと理解した。 事務局へのお願いとして、私たち地方にいると作品に触れる機会が少ないと感じる。中央に行くと美術館、博物館というのは敷居が高くなり、子供たちは自転車で行ったり、夏休みにサンダル履きで行ったりとかするような場所の一つである。県立美術館は、例えば公園の利用者はトイレを使わないと入口にパンと張ってあると、閉ざされた館だなと思ったのと、やはり教科書とかいろんな作品が教科書に載るような作品を参考にして選んでいただきたいと思う。教科書に載っていたような作品があつたり、どういうものがあるのかなど地方の子供たちの目に触れるようなそんな美術館であればいいと思った。

	山口委員長⇒よろしいでしょうか。
説明事項 ウ 【質疑応答】	「令和5年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況について」(資料2) 事務局から資料2により説明を行った。(説明内容省略)
◆伊藤委員	意見というよりは、教えていただきたいことがある。これまでの会議の中で対面での出前授業は比較的申込みは少なく、ICTの授業の申し出が多いとののが今の状況とのことでしたが、ICTではどういったことを目標としてされているのか。
◆美術館(岩渕)	ICTの出前授業というのはマイクロソフトのTEAMS、もしくはZOOMで学校と美術館をつなぐことで、教育普及の職員が講師を務めて、小学校、中学校で多くの学校が使用しているロイロノートという学習支援支援アプリを使って、当館所蔵作品を画像データしたものをおこなう上で鑑賞する美術館の活動を今まで行っている。
◆伊藤委員	特に人気というのは、学校側からのICTの要請があるということか。対面ではなくICTに人気があるというはどうしてだと思うか。
◆美術館(岩渕)	小学校でも中学校でもICTは積極的に使おうという動きがある。まずは学校によって差はあるようなんですかでも、この機会にぜひ新たにやってみようという学校が多い印象だ。
◆美術館(副館長)	これまで出前授業というのは、学校の美術の授業の中で美術館の美術品を直接手にすることはできなかったため、作品を紙に印刷したり写真にして持参し授業するというような内容を伝え、年度当初に学校へ通知し募集してきた。県内概ね6つの地区に区分けし、年度で募集地区を変えながら、手が挙がったときに対応できるように組み立てている。その中で、数件あればそこに直接日程調整して行っていた。6つの地区を一回りするのに6年かかるため、小学校の時に経験できない子供たちもでてきた。 1日当たりに対応できる学校は数校だが、今学校にGIGAの関係で端末が出回ったことを踏まえ、出向かなくてもできるようになり、それぞれの教室で授業できるような形に組んでいる。職員が直接出張しなくてよいから、日程調整さえすれば非常に数多く対応できるということで、学校の会議等を通じて希望を募った際にはあまり希望がなかったが、内容を伝えきれていないことから、改めて普及から具体的なものを示したら結構手が挙がった。 先ほどのように、美術館の収蔵品をデジタルアートカードというものにデジタル化したことによって、パソコンの端末でそれが見れるようになる。これまで実際に出向いてこれとこれの共通点とか、手で動かしたりしていたが、パソコンの中でこれとこれはどういうところが共通しているものかというふうなことが、パソコン上で操作できるようになった。これによって、2名の職員が出ていったのが出向かずに、4つのタブレットを用意し、メイン進行する教員のほかに他の3名は補完的に対応するため、学校で班単位で様々な作業をする場合に、A班でやっているのを1名の誰かがついてフォローしたりと、全体進行と分けてというような形が今できるようになった。去年は盛岡近辺の学校に御協力いただき、実際の授業で実験という形で行い、今年度は実際に8月上旬から実施し計16校が取り組んだ。
◆田中委員	SNSを利用して思うことがある。フェイスブックとXをフォローしているが、いいねが凄く少ないと思う。フォロワーも少ないなと思って。ガレリーナがインスタグラムで凄く情報発信していて、その仕組みってどうなっているのか気になった。
◆美術館(吉田課長)	フェイスブックもXも同じように同じ原稿で投稿しているが、恐らく今、フェイスブックの利用者のほうが多いのかなという気がする。当館のインスタグラムのアカウントはな

	い。ショップはショップでやっていて、グッズやイベントの予定等の情報提供をしていく。どういう媒体がいいのかを勉強して、今後の展開を考えていきたい。
◆梶田委員	<p>レストランが閉店したときに、早々にでも再開していただきたいと館長さんを前に話しましたが、フィンランド展の時もすごくおいしくうれしかった。</p> <p>今回のサンリオ展も私たちの年齢層にはドンピシャだったので、すごくうれしく思っているが、やはりそれに合った食事というのもすごく楽しみだった。美術館で食事できたことは、一つの楽しみだったので、これからどういう方向でレストランがいくのかというのを教えていただきたいのと、それからムーミン展について、みんなからやらないのかなと、聞いてきてほしいと言われる。やはり中止になってしまったのがあるので、そういう企画（ムーミン展）を強く要望をしたい。私もこのサンリオ展、2回来たが、土、日、すごいですね。駐車場が入れないくらい、周りにも置けない。では、平日に終わったあたりで行こうかなと1回来たが、やはりすごい人気。やっぱり博物館のポケモン展と同じで、あれも1年間の入場者分を稼いだのではないかというようなすごいことだったので、時々に合わせたものをやられると本当に楽しいし、すごくよかったですと思っていた。本当にいつもいつも楽しみにしているので、レストランの方も併せてお願ひしたい。</p>
◆生涯学習文化財課 (猿ヶ澤主査)	<p>レストランについては、利用者の方々から多くの声をいただいていた。長らくお待たせしており、申し訳ございません。</p> <p>現在県教委のほうでホームページのほうにレストラン事業の再開に向けた事業者の意向調査（サウンディング調査）を開催するということで、ホームページで周知している。8月30日からホームページで周知しており、9月13日に希望する事業者様向けの現地説明会を開催し、出店意向や事業希望者様を集めて、どういった事業形態であれば事業が可能かということでお話を伺いして、レストランの活用に向けて検討を進めさせていただく予定。基本的に飲食を提供という形での営業を考えているが、事業者様の意向などを踏まえて今後検討を進めてまいりたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。</p>
◆美術館（吉田課長）	ムーミン展へのご要望は、当館で実施しておりますアンケートに必ずといっていいほど要望に上がっているコンテンツである。あのとき巡回したムーミン展そのものは難しいが、今後同様の企画の情報というのは収集しており、開催できるように努めているところ。それからサンリオ展は、ポケモン展同様にたくさんのお客様に観覧いただいている。この夏休みに開催できたというのは、私たちもお客様の反応を見てとてもよかったですとうふうに思っている。こうして人気のあるコンテンツ、展覧会というのは皆さんに喜んでいただくだけではなく、そこには収支も関わってくる。我々も年に1つはこうした大型の展覧会をやって、皆様に関心を持って来ていただく、また、美術館の運営に資するような方向で企画展、常設展の計画を進めてまいりたい。
◆田中委員	先ほどのレストランについて、友の会としても、コロナ前に作家さんを呼んでレストランをお借りして会員のかたと紅葉を楽しむという企画をやっていた。あれこれあってレストランが閉鎖になり、イベントが出来なくなっている。要望もありますので、再開に向けてよろしくお願ひしたい。
◆伊藤委員	先週サンリオ展に行ったが、レストランが閉鎖になった替わりに小さなショップがレストランの前に出ていて飲食物の提供とかやっていて、いいなと思った。
説明事項 エ 【質疑応答】	<p>「観覧者数の推移について」（資料3）</p> <p>事務局から資料3により説明を行った。（説明内容省略）</p>

	説明に対しての意見はなかった。
説明事項 オ 【質疑応答】	<p>「令和6年度事業実施状況について」(資料4) 事務局から資料4により説明を行った。(説明内容省略)</p>
◆齋藤委員	<p>コレクション展について。今開催中の百瀬寿の展覧会、楽しく拝見した。2020年の大宮政郎さんの展覧会あたりからかなと思うが、大宮政郎さん、2022年の杉本みゆきさん、2023年の菅木志雄さん、そして今回の百瀬寿さん、今現役で活躍されている方を特集する、コレクション展だけれども、コレクション展を超えて企画展ではないというような感じの展覧会は、作者本人から借用したりという形で展開されているものを私は特に面白く思って見ている。これはコレクション展というくくりを半歩か一歩超えているじゃないというふうに思っていて、その辺の魅力を何かもう少し別の形で伝えられることがあるのではないかというふうに感じている。</p> <p>そして、これは岩手の美術にとっても現役の作家を取り上げているよということは大切なことだと思うし、お金がかかることだけど、何か冊子とか本の形で残したり、会期中にはその作家が来てトークやイベントだったり、あるいはアブリーレでもインタビューで特集されていると思うので、そういうのをこうした形で蓄積していくということは後の人にとってとてもいいことになるのではないかと思った。</p> <p>今回はサンリオ展を楽しく拝見したが、サンリオ展が人気になるのは収益の関係とか仕方ないことではあると思うのだけれど、サンリオ展を見終わって外にでる、そうすると右側では、キャラクターの写真パネルがある。左手側には楽しいグッズコーナーがある。グッズコーナーを出ると出口の方に行ってしまうので、コレクション展までは思い至らない方も結構いるのではないかと思っていて、せっかくたくさん的人が来たときに、どれぐらいの方が体力的にも精神的にもコレクション展を楽しむかどうか分からなければ、この点を何とかコレクション展にも誘導するような方向に持っていくて両方を楽しんでもらったらいいのではないかと思う。特にサンリオのカワイイを見て、百瀬さんのキラキラは見たら引っかかるのではないかと思ったので、ぜひ何か、コレクション展だけれども、ライブ感があるというかそういうところを特集というか、より分けて別の何かシリーズという形にしても、今生きている人の活動も見えるよというのも面白いのではないかなというふうに思う。</p>
◆美術館（吉田課長）	<p>お話をどおり、最近は現役の作家さんをフィーチャーしての特集を組むことが多くなってきた。予算的には大変厳しいので、実は手弁当でやるとか、そういったところはあるが、うちの企画展示室というのは大きい。大きいので、あそこの展示室を埋めるだけの岩手の作家さんの企画展というのは計画、組み立てが難しい。そうならば、2階のコレクション展の方で、ああいう形でのコレクション、当館のコレクションにプラスアルファした形の本当にミニ企画といった感じになるが、そういった形で取り上げて、フィーチャーしていくということは今できることかなというふうに考えていて、そういった取組が今ちょっとずつ積み重なっているところ。</p> <p>今御指摘にあったとおり、これを記録に残すということが色々な事情によりできずにいることが私たちも残念に思うところはあるが、アブリーレで作家インタビューとして取り上げるなど、様々な方にご覧いただいている。</p> <p>確かに、私たちの方で強く引っ張って行くというような泥臭いところはないかも知れないが、貪欲に努力をしていったらいいのかなというのは、御意見をいただいていて思った。</p>

◆大衡委員	コレクション展の観覧者と企画展の観覧者がでているが、企画展を見た人でコレクション展を御覧になる方というのは、割合としてざっと何割ぐらいいるのか。
◆美術館（吉田課長）	当館のコレクション展の観覧者数というのは、純粋に常設展のチケット買って入ってくださった方がカウントされている。企画展のチケットで御覧になった方というのはその中にいるのだが、実はここの数字には表れてこない。
◆美術館（千田課長）	手元に資料がないので、不確定な人数はここでお答えできず、申し訳ございません。
◆大衡委員	<p>企画展は見たが、コレクション展はなかなか足が向かないという人が多い傾向にあるのではないかと思ってお尋ねしたが、企画展、事業概要のところを見ると、幅広い視野のもとに、地域や時代にとらわれない、国内外の様々なテーマによる企画展を開催するということで、何でもできるような内容になっている。先程、学芸普及活動から、大型展のために集客をしなければというような話があったが、美術館においてそれは酷だというのもわかるし、この協議会に出席してよく分かるのだが、例えばサンリオが来たよ、見に行こう、ムーミンが来たよ、見に行こう、ジブリが来たぞ、見に行こう、お祭りだ、わーい、わーい、いっぱい見て楽しかったね、さあ、帰ろうというのでは、せっかく美術館に来た効果があまり発揮できないのではないか、もったいないなと思う。</p> <p>前々からコレクション展が学芸員の方たちの非常に個性的な力の入った展示だということはこの場でも申し上げてきましたが、なかなか足が向かないとなると企画展と、それからコレクション展ができるだけリンクさせるようなことを考えていただけるとありがたいなと思っている。例えば、川端龍子と岩手の関わりというのはかなり強調されていたよう拝見した。全ての展覧会がそのようにいくとは限らないのは重々承知しているが、なるべく企画展の内容をコレクション展のほうにもちょっと上げさせるとかまでいかなくとも、少しでも何か関係のあることをして、種を撒くとそれにつられて人がやってきて芽を出して花を咲かせるということもあるのではないか。大型展覧会としても集客が非常に優秀な展覧会が多いだけにコレクション展のほうもぜひ足を向けていただくようなことを、大変でしょうけれども、工夫していただければ非常にありがたいと思っている。</p>
◆美術館（吉田課長）	<p>企画展とコレクション展の関連というのは、私たちもすごく意識をしているところで、恐らくもうお気づきになっているかと思うが、川端龍子のときは中尊寺、平泉などとの関連もありましたし、今年の一本目の堀内誠一さんの展覧会のときは、堀内さんは松本竣介に憧れたということもありまして、企画展示室に竣介の作品も展示しましたし、同じく2階のコレクション展におきましても堀内さんが憧れた画家、あるいは関係のあった画家、同時代に活躍した画家というような作品をピックアップしたようなところもある。</p> <p>どこまでPRができるかというと難しいところはあるが、なるべく関連があるような常設展、大型展とコレクション展の関係は、展覧会に関係するいらっしゃるお客様の層にもよるので、一概には言えないのですが、例えばジブリ見に行ったよというのが、県立美術館に行ったよとはならないとは思うのですけれども、あの場所に行ったということがどこかまた思い出してくれるような、あくまでも人気あるコンテンツというのはそのきっかけづくりというか、入り口であろうというふうに思う。県立美術館の場所であるとか、色々重なったことによって、我々がそこでいろいろな情報提供差し上げて、コレクション、岩手の美術に触れ合うきっかけになるような、そういった工夫をしていきたいと思う。</p>
◆小野寺委員	初めて参加するので、公表できないのかもしれないが、企画展のところで観覧者数は終了したものは入ってはいるのですが、目標のようなものは決めているかとは思うが、そこ

	<p>は公表できないということなのかと、月別ですと前年の展示内容であったり、いろいろな会議の決定によって、年間終わってみないとなかなか分からぬのかなというところもあるかと思うので、その辺に対してどうなのかという、全体に対してのところがもし公表できるのであれば少し情報をお教えていただければというところと、もう一点は先ほど他の方からも意見があったが、SNSのところは今もう必須になっているので、そこに対してもひょっとしたら計画値でフォロワーを何千人まで目指そうというような具体的な取組があつてもいいのかな、もう今年やっているかとは思うが、そこに向けてというところをやつていたり、作家のSNSから今展示しているところに飛んでつながっていくようなところもあるので、ぜひSNSについては力を入れていただきたいということと、観覧者数はもし目標に追いついてないというところがあれば、追加策の動きであつたり、あとは県や私たち民間のところでもっと応援して県立美術館に足を運んでいただくような動きがとれればと思っている。</p>
◆美術館（副館長）	<p>計画については、採算の命題がありますので、この企画展であれば何万人を目指そう、人数だけでしかカウントできない。有料の人数はどれぐらいあるのかをハードルが高いので、目標にということからいくと、今サンリオ展なんかはかなり目標よりもかなり良いということになる。そういうことで、実はそれぞれこれは何人というのは把握していて、進捗状況によりまして予定通りではない企画展については、追加で宣伝をしようとか、場合によってはあるので、進行管理を行っていますが、具体的な数字は御容赦いただきたいのだが、そういう管理をしている。</p> <p>SNSについては、今年度からかなり力を入れているが、どうしてもCMの効果を測ることが難しい。CMに割ける予算が少ないため、SNSに力を入れたと思っているが、企画展によっては著作権の兼ね合いで、ほとんど展示物の画像を掲載しては駄目だという縛りとかがある。サンリオ展については、どういう内容を載せるのかという事務局のチェックはあるが、かなり中の展示物を幅広く載せられるので良かった。他展は展示の内容はいいが、縛りがどうしてもあって、載せられにくかった。そういうところについては、来てもらうためにどんな内容なのかがわからないと、なかなか足を向けようということにはならないので、やはりそういうところをどんどん発信して、可能な限り、今後はやっていかなければならないと思っている。</p>
(2) 協議事項 【質疑応答】	<p>美術品収集について【資料5】</p> <p>事務局から岩手県立美術館の美術品等の収集に係る方針等について資料5により説明を行った。(説明内容省略)</p>
◆大衡委員	<p>この2番目の資料、美術品収集についてということで、①から④、作家の名前が挙げられていますが、令和6年度の美術品収集については、ここに挙げられている作家が対象なのか、それともほかにもいるけれども、現代美術と言われるような人たちの名前だけをここに挙げたのか、どちらなのか。</p>
◆美術館（吉田課長）	<p>計画としては、まだ実は調査中のものもある。こちらの方が全てではない。菅木志雄さんの作品、ここ2・3年いろいろ御意見を伺いながら進めてきたところで、菅さんの作品を上げている。ご指摘にありましたとおり、現代美術の作家さんが中心とはなっているが、これ以外にも、去年行われました展覧会で出品された作家さんの作品も考えている。</p>
◆大衡委員	<p>何となく菅さんの作品が話題のもとになりそうだという資料なのかなというふうに、邪推してしまった。そういったところも含めて意見を言わせていただけるということでお話をさせていただくと、現代美術はなかなか理解が難しいと思われているところもあるかとは思うが、現代美術は非常に長い歴史が日本にあるわけだが、少し前の協議会では、菅</p>

	<p>さんの作品が非常に注目の的になったというところがあるかと思う。ただ、今は現代美術と言われていない作家でも、制作当初は今の菅さんと同じようなレベルであった作品がたくさんある。長い歴史がそれは証明して行くことになるかと思うが、では、誰の意見を聞くのかといったときに、もっとも尊重されなくてはいけないのが、岩手県立美術館の学芸の考え方だと思う。そういうことを判断できるという考えの元に採用され、研鑽を積み、長い間お仕事をなさって、展覧会を企画したり、調査研究を行った方たちの考えに沿つて、それを信じて作品収集をしていくべきものなのではないかと思っているので、私はこの収集計画がまだ固まっていないというところもあるのかと思うが、岩手県立美術館の学芸員の方たちの御意見を尊重して進めていただきたいと思う。</p>
◆梶田委員	<p>以前にこういうお話をいただいた時、私は学芸員の方たちの意見を尊重したいとお話していたのだが、反対の方たちも何人かいた。この時期このような作品を出して良いのかというようなお話がでたように思う。大体、御幾らぐらいの予算を考えているのかというのも判断の一つになると思う。</p> <p>それから、帰る時に駐車場で呼び止められて、学芸員を尊重するとあなたは言ったけれども、予算的なことを考えているのかとかすごく言われたので、私はなんとなく教えていただければありがたい。</p>
◆美術館（副館長）	<p>作品については、全部が買うものではなく、寄贈もあって、基金の使い方については、概ね5年間で5千万円くらいを目途にと考えて取得するというふうに考えている。色々方法はあるが、その中で検討していきたいし、全て買うものではない、寄贈という形での収集など、トータルで令和6年については取得したいと思っている。</p> <p>今後は、評価などについては美術品収集評価委員会で審査してという流れになる。</p>
◆伊藤委員	<p>美術品収集のこのページに上がっている方たち、ぜひ収集すべきだと思う。</p> <p>それから、1番の菅さんですが、ここ何年か菅木志雄さんの作品を収集したいということでこの場でも何度か話していただいているところだが、なかなか進んでいないというのには多分、県とか議会の中で、収集が妥当なのかどうか分からぬのか、高過ぎるのではないかとか、そういった意見があったのだろうなというふうに思う。</p> <p>菅さんは、あまりにも世界で活躍し過ぎたために、岩手県内の活動はほとんどない方なので、舟越桂さんとかと違って、県内にはほぼ知られていないというのがネックになっているのではないかなと思う。この中で、私は菅さんが一番ビッグネーム、世界的に活躍している方だと思っています。お値段もその分お高いと思うが、岩手ゆかりの作家、確実に今後の日本美術史の中で名前が残る人なので、積極的に1点とは言わず、10点でも20点でも買えるぐらい買ってほしいというのが私個人の考え方というか、希望。そのとおり、お高いので、なかなか買えないという事情もあると思うが、ぜひ今年こそは収集ができるよう強く希望する。</p>
◆生涯学習文化財課 (小澤総括課長)	<p>丁寧な御審議、また積極的な意見をいただき感謝申し上げる。今後皆様の御意見を参考にしながら、順次進めていく。</p>
◆山口議長	<p>委員の皆様から様々な御意見があつたが、美術館としてこれからコレクションを充実していきたいと考えているようでございます。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。 （「はい」の声あり）</p> <p>それでは、今回の方向性で美術館のコレクションの充実を図っていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。</p>

(3) その他 【質疑応答】	「その他」について
◆生涯学習文化財課 (小澤総括課長)	<p>最後に1点だけお知らせとお願いがある。</p> <p>レストランスペースは、事務局から説明あったとおり、今、サウンディング調査という意向調査をしている。岩手県立美術館調査で検索していただくと、要項等がぱっとでるので、ぜひ飲食関係ですか、お知り合いの方に今そんなことやっているみたいだよというのをお声がけいただいて、ぜひ多くの方に興味を持っていただきたいなと思いますので、ご協力いただきますようよろしくお願いしたい。</p>
◆加村委員	<p>先日久しぶりに青森県立美術館に行ったが、青森の県立美術館は観光系の部署が担当していて、青森県内の色々美術館やアート施設に観光誘致も視野に入れた良い活動をしているなと思った。岩手県立美術館の強みですか魅力は、教育連携が強いのかなと。教育委員会の所管ですよね。それが武器なんだろうと思う。その武器を最大限に生かして、若い人たちにどんどん美術館を好きになってもらうような、取り組みをしていってほしいし、岩手県、盛岡市、観光の方も盛り上がっているので、この作品を見たいから、岩手に行こうと思っていただけるような、そのためには菅さんの作品が必要なのではないかなと思います。昨年も一番菅さんの作品が充実しているのはこの美術館であってほしいというようなことを言ったが、もっとも菅さん作品が充実しているのは岩手県立美術館において他にはないと強くアピールしていく、ぜひぜひ収集していただきたいと思う。</p>
◆美術館（副館長）	<p>青森県さんが5館連携で企画展というか、取り組みをしているのは伺っている。美術館として、博物館連携だけではなく、連携所管しているのは教育委員会ではあるが、教育普及に力を入れているところもある。石神の丘美術館さんですか、様々な美術館の取り組みをこれから考えていきたいと考えているので、今後とも様々な御意見をいただきたい。</p>
◆柳田委員	<p>岩手は人口流失がとても激しくて、若い人に魅力のある街づくりは大切だと思う。観光もそうだが、街づくりも含めた美術館の在り方というのも考えていただければと思う。私は若い世代の憧れをもって岩手に残れるような街づくりを美術館が中心になってやっていければなと思うので、よろしくお願いしたい。</p>
◆山口議長	<p>先日、花巻市博物館のジブリ・アニメージュ展を行ってきた。その際、花巻市内の飲食店がコラボメニューとして飲食を提供しているというようなことがあって、盛岡も町との取り組みや、岩手県全体が盛り上がるような企画があればいいと思っている。</p>
◆伊藤委員	来年の企画展等がわかれれば教えてください。
◆美術館（副館長）	すみません、まだ教育委員会との協議中の段階ですので、回答できません。
(4) 閉会 ◆ 山口議長	<p>以上をもちまして本日の協議を終わりたいと思います。 (終了)</p>